

報告事項オ

令和8年度とっとり夢プロジェクト事業の選考結果について

令和8年度とっとり夢プロジェクト事業の選考結果について、別紙のとおり報告します。

令和8年7月7日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

## 令和8年度とっとり夢プロジェクト事業の選考結果について

令和8年7月7日  
高等学校課

## 1 概要

本事業は創造力とチャレンジ精神を持った高校生等が、自由な発想で主体的に企画・活動することを支援することをとおし、生徒自らの自主性・個性の伸長、学校や地域の活性化につなげることを目的として平成26年度から実施しています。今年度は、選考を通過した以下の14企画を採択し、支援することとしました。

## (1) 「防災減災プロジェクト」

(米子工業高校 代表 小谷 萌) (支援額 440,000円)

防災士の資格を取得し、正しい知識とスキルを身につけ、自助・共助・協働を実践できる人材の育成を目指す。学校全体の意識改革を行い、生徒・教員・保護者が一体となり、無意識に体が動くレベルまで防災を日常に落とし込み、校風として定着させる。また、被災地視察を行い、学んだ知見を学校外(ぼうさいこくたい等)や地域住民へ発信し、安全に生活できる地域づくりに寄与する。

## (2) 『応援部「つなぐ」アクションプロジェクト』

(米子東高校 代表 天満 劉葵) (支援額 220,000円)

地域に賑わいと一体感を創出し、地域活性化に寄与することを目的とし、他校応援部との連携・交流を促進しながら、応援活動の質の向上と持続可能な活動基盤の構築を図る。主に、①応援部員同士のネットワーク構築を通じた長期的な協力関係の育成、②各校の応援文化を学び合う交流会の実施、③地域イベントに共同で参加し応援活動による地域活性化を目指す。

## (3) 「地域をたすけ、地域をつくる高校生ネットワークの構築」

(米子西高校 代表 新田 大慶) (支援額 50,000円)

地域の高校生が能動的に、主体的に活動を行うための高校生ネットワークの形成を図る。高校生が高校生同士や地域で活躍する大人とつながることで、日常的に地域の活動に高校生が参画する仕組みを構築する。例えば、米子がいな祭のボランティア、クルーズ船寄港時の夢みなとタワーでの英語通訳・観光ボランティアとして参加し、その報告会を開催する。

## (4) 『「鳥取の魅力は僕らが創る！」—「鳥東高連」による地域ブランディング計画』

(鳥取東高校 代表 中口 優太郎) (支援額 430,000円)

「鳥取の魅力は自分たちの手で創り出す」という思いをもって立ち上がり、高校生の熱でしゃんしゃん祭のうねりをさらに大きなものにする。しゃんしゃん祭には「鳥取東高連」として参加し、その活動を情報発信し、近隣の高校や小中学校との垣根を超えた活動に発展させていくことで、鳥取を「高校生が元気な町」としてブランディングしていくことを目指す。

## (5) 「スイカとイチゴで循環農業」

(倉吉農業高校 代表 幸本 裕敦) (支援額 320,000円)

鳥取県登録品種イチゴ「とっておき」をスイカ堆肥にて栽培することで、無駄な残渣を有効活用し県産品をアピールした新たなブランドイチゴの確立を目指す。作成した肥料の販売、収穫したイチゴ果実の加工品の作成、栽培による環境への影響分析、循環農業を行う現場の見学・現場実践等を行い、スイカ残渣の有効利用を検討する。

## (6) 「料理の楽しさ、発見教室 Petit Chef KURAKITA Cooking School～ペティシェフ倉北クッキングスクール～」

(倉吉北高校 代表 山本 朱樹) (支援額 450,000円)

食に興味を持つ地域の子どもたちに、料理体験を通じて「食」の大切さと、自分で料理を作る楽しさと喜びを学ぶ機会を提供し、健全な心身の育成を図る。あわせて、地域の食材や食文化への理解を深める場を提供する。高校生が献立を考案し、作り方のポイントや作りやすさなどをレクチャーしながら、一緒に作成し、試食を行う。

(7) 「里山の環境保全活動～スクールドッグによる鹿忌避効果の実証と命の循環～」  
(湯梨浜学園高校 代表 坂本 安優) (支援額 440,000円)

シカによる農作物被害を減らすため、鳥取県猟友会や地元の高齢者の方々と連携し、農地にシカを寄せ付けず、安価で持続可能な有害鳥獣の忌避効果は何かを検討する。また、捕獲された鹿を山中からふもとに降ろす作業を担い、学内にて解体処理を行う。その際に毛皮や角は鞣し加工をすることによって、工芸品や箸置き、キーホルダーとして地域の介護施設、保育園等に寄付することによって、乾燥処理を行いドッグフードに加工し、本校で飼育しているスクールドッグに還元する。

(8) 「つくって 知って つながろう 附特マルシェ」  
(鳥大附属特別支援学校 代表 牛尾 姫都美) (支援額 160,000円)

高等部のリーダーとして主体的に、地域の人がつながり笑顔になれるイベントを企画する。作業学習や総合的な探究の時間等で学んだことを生かしたワークショップやマルシェを実施する。準備をすすめる過程では、地域の学校や作業所等にも声かけをし、協力をお願いしていく。

(9) 「天然記念物と地元農業の共生を目指した新しい取り組み」  
(米子高専 代表 金田 七星) (支援額 500,000円)

天然記念物オガサワラオオコウモリによる農作物への食害を低減するため、殺さずに撃退が可能な農業支援システムの開発を行う。鳥取県の学生が開発した技術で天然記念物との共生を実現することで社会課題解決につなげる。また、本システムはサーモグラフィー画像のAI物体検出を実現するため、災害時の人命救助等への転用も検討する。

(10) 「鳥取県海岸の清掃DX化プロジェクト」  
(米子高専 代表 前田 百花) (支援額 320,000円)

回収が困難な小型の漂着ごみに焦点を当て、プログラミングによって制御された小型クローラードンプを活用し、漂流ごみを効率的に一か所へ集積する手法の確立を目的とする。これにより、従来の人力作業の負担軽減と回収効率の向上を同時に実現し、持続可能な海岸清掃の新たなモデルの提案を目指す。

(11) 「寄り道プロジェクト in 米子」  
(米子南高校 代表 手嶋 香乃) (支援額 170,000円)

地元のお店や地域に人の流れをつくること、高校生が地元の良さに気づくきっかけをつくること及び高校生同士の交流や放課後の楽しみを増やすことを目的としたイベントを実施する。スタンプラリー、地元ビンゴ鳥取(鳥取県の観光地、名物グルメ、方言、あるあるなどがマスに書かれていて、遊びながら鳥取のことを知ったり楽しんだりできる)などを計画している。

(12) 「廃材がよみがえるぜ! ☆～ライトアッププロジェクト～」  
(米子南高校 代表 福田 ひなた) (支援額 40,000円)

廃棄するはずだった廃材を使用して、置物等廃材を使用したものづくりを行うことで環境への意識を高める。ワークショップを行うことで、地域の人々の交流を図る。

(13) 「とっとり発! 一口で届ける鳥取の味。でこまん革命プロジェクト」  
(米子南高校 代表 木村 莉愛姫) (支援額 340,000円)

米子市で親しまれている「でこまん」に着目し、鳥取県産食材を使用して食べ歩き等がしやすい商品を開発する。具体的には、白ねごとみそ、チーズを組み合わせた主食系の「でこまん」やイチゴジャムを使用したスイーツ系の「でこまん」を試作・改良し、味や見た目、提供方法を工夫する。試作・改良を複数回行った後、まずは地域の祭りやイベントでの提供を予定している。

(14) 「カニガラ肥料をもっと身近に(ミジカニ)」  
(米子南高校 代表 佐野 千颯) (支援額 120,000円)

出汁を取った後、可燃ごみとして捨てられるカニの殻をリユースしたカニガラ肥料をたくさんの人に周知し、使ってもらうことでカニガラ肥料を有名にし、ごみの削減に取り組む。カニガラ肥料を製造している事業所と連携し、家庭菜園で使えるサイズに小分けし、肥料パックとして販売・宣伝する。

2 応募状況  
20企画

3 選考までの経緯

- 4月2日 県内高等学校、特別支援学校高等部及び米子工業高等専門学校に  
募集通知を发出
- 5月8日 受付締切  
1次（書類）審査（20企画）
- 6月13日 2次（プレゼンテーション）審査（14企画）
- 6月23日 決定通知

< 2次審査会の様子 >



リモートによる審査では、自らの思いや企画をプレゼンテーション。



審査員からの質問にも一生懸命に応答。